

す。この世は娑婆(忍土)だと実感された方も多いでしょう。しかし、そこから逃げて、どこかに楽園がある訳でもありません。娑婆即涅槃、涅槃即娑婆。今生きている毎日の日常をしっかりと生きる事が大切ですし、それを涅槃に変える生き方を説いたのが、仏道です。そして、生きていく我ががきちんと生きていく事が、ご先祖様が喜んでくれる事、つまり供養だと思います。

地震からの復旧

昨年、十月には、発注していた鬼瓦が完成し、本堂全体に足場をかけて、修復工事が始まりました。棟瓦、鬼瓦、降り棟は全て葺き替え、屋根全体は、台風に備



地震被害前の本堂の棟瓦



地震修復後の棟瓦 (若干低くなっています)



本堂内 (大間) 工事作業



屋根工事用の足場



張り替えた天井 (観音像前)



完成した大間

瓦四枚に一枚、ビス止めをしました。左上の写真を見て分かるように、棟自体の高さを下げ、鬼瓦も少し小さくしています。前の鬼瓦は二つ分の破損していない部分を合わせると丁度一つのきれいな形になるので、納骨堂も関横に展示する予定です。本堂の中も、天井板を三分の一貼り替え、壁板も半分以上貼り替え、漆喰は全体に塗り直しました。有難い事に、知り合いの県外の職人さん達が頑張ってくれたので、十二月一杯で仕上がりしました。期間中、寺で法事をされた方にはご迷惑を掛けましたが、ようやく完成しました。お彼岸

の際に、確認下さい。

今こころにZEN

日本の閉塞した状況が理由なのかは、分かりませんが、今、坐禅をしたいという人が増えています。欧米でマインド・フルネスという坐禅を基にした療法が起り、その逆輸入なのかも知れませんが、坐禅もそうですが、一般には瞑想という形で捉えられる事も多いようです。瞑想は仏教だけでなく、カトリックでも行われます。今回は、イタリヤ人のフランク神父様とキリスト教の瞑想と禅の相違点に関して対談を行いました。「神の声を聞く」と「自己を習う」と狙い目は違いますが、物質的欲求を離れる点では同じである事を確認できたような気がします。

続いて、音楽会では、恒例のジャズベースの巨人、鈴木良雄氏が、ベテランの

定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より
当山本堂にて

一炷(約四十分)坐禅をして、仏教や禅の著述に関する話(約二十分)。今は「佛遺教経(八大人覺)」。会費会則一切なし、初めの方は、連絡下さい。

メンバーを連れてきて演奏してくれました。地震の時も、心配して真っ先に東京からメールをくれたのも鈴木氏でした。少しでも、熊本の人の心を和ませたいと素晴らしい演奏をしてくださいました。工事中の壁はブルーシートで覆われた状態でしたが、ジャズのメッカルプルー・ノート」をもじって今年「ライブアットブルーシート」だねとブレイ。来られた方は、素晴らしい時間を有り難うと帰っていかれました。今年も下記の日程で来てくれます。



平成二十九年 浄国寺予定
四月二十九日(土) 午後二時
松本喜三郎 墓前祭
喜一郎翁 追憶供養
谷汲観音供養 その他
七月三日(日) 午前十一時
施餓鬼会法要
お盆壇信徒先祖給供養
十一月十一日(土) 午後六時
「いま 心ZEN」
仏教講演会
記念音楽会 鈴木良雄 & Bass Talk With 増尾好秋

身辺雑記

いよいよ四月から、私が園長を務める高平幼稚園も幼保連携型認定こども園に移行する。0歳から受け入れるし、保育標準時間は一日十一時間。保育所と同じだ。親子の触れ合う時間はいよいよ少なくなる。私は、当園は幼児の教育機関の幼稚園に保護者の就労支援機能がついた施設ですと訴え、その点を納得したという契約書に印鑑を押し家庭の子だけを見ることにしている。内田樹という文筆家(元神戸女学院大教授)が「街場の共同体論」で触れていたが、国が経済活動を活性化させる為に、「家庭」を崩壊させ互助機能を退化させ、教育や福祉の世界にも経済原理を持ち込んだ。すべてが費用対効果の側面では考えられないくらい人としての基礎的な思いやりや教養つまり非認知スキルを失ってしまった。これは乳幼児期の脳の発達時に最も育まれるそうで、今、当園では、園を挙げて、この非認知スキルの獲得に力を入れている。内田氏によると三〇年かけて崩壊させたものは修復にも同じ時間がかかるそうだ。私の命の持つ限りは頑張っていくつもりだ。